



派遣学生への指針

国際ロータリー第2640地区
青少年交換委員会

ロータリーの青少年交換の目的は、派遣期間中にその国の言語を習得するとともに、出来るだけ多くの学生、ロータリアン及び地域の人たちと交流を行い、その国の人情・風俗・習慣・文化・歴史・社会についての見聞を広め、併せて日本を紹介し、人間の思いやりの精神を高めるよう努力し、人間形成のための心を養成し、もって国際ロータリーの唱する国際理解と国際親善を促進するよう努めることにある。従って、派遣される学生は、単なる奨学生ではなく、日本を代表するロータリーの親善大使または一種の外交官の役割を果たすものと考えて、十分にその使命を果たしてもらいたい。

【1】派遣前の準備

1. 派遣される国の言葉の習得に全力を挙げ、日常会話くらいは不自由なく出来るよう万全の準備をすること。また派遣される国の政治や経済・文化等にある程度知識を持ち、特に一般家庭生活の実情についても研究しておくこと。
2. 日本の地理、歴史、風俗習慣、文化、家庭生活について、ある程度英語または派遣国の言葉で話せるよう原稿を作っておくこと。また暗記しておいてもよい。受け入れクラブは勿論のこと、他クラブからも日本について何か話をしてほしいとの要請がある。「備えあれば憂いなし」なので準備を怠らないように心すること。またスライドなどを持って行き供覧しながら説明するのもよい。要請があれば断ってはいけない。断ればやる気のない学生と判断されて、最悪の場合、帰国させられることがある。
3. ロータリーの交換学生としての派遣なので、ロータリーについての十分な知識を持ってゆくこと。交換学生として守らなければならない規則がたくさんある。それらの規則を熟知しておくこと。規則に違反すれば即刻帰国となる。地区委員会でも指導するが、時々スポンサークラブの例会に出席して勉強をすることが望ましい。
4. 第1ホストファミリーが決まれば、出来るだけ早い時期に手紙を書いて自己紹介と共に挨拶をすること。出発日、フライトスケジュールが決まれば連絡すること。地区委員会からは相手方の地区委員長に連絡をすることになっている。
5. ロータリー親善大使としての必需品として、スポンサークラブのバナー5枚程度、バッジ、名刺、ブレザー、お土産等を用意すること。ロータリーの例会や行事などに出席するときはブレザーを着用のこと。

【2】出発直前の準備

1. パスポート、航空券、現金、クレジットカード、必需品等大事なものの忘れ物がないか確認のこと。女子学生では「生理用品」も忘れないように。
2. スポンサークラブと学校には出発前に必ず挨拶に行くこと。
3. 目的地に着いたら必ずご両親のいずれかに無事に着いたとの連絡をすること。両親が一番安堵する瞬間である。（ご両親は、スポンサークラブに連絡のこと）

【3】派遣中について

1. 風俗習慣、食べ物等すべて異なる環境での最初の生活は、大変で辛いと思うが、焦らず、急がず、辛抱すること。トンネルは必ず抜けるものである。
2. 学校の勉強についても言える。最初の2～3ヶ月は語学力の不足もあり、内容が理解できず、成績の悪いこともあるが、悲観せず、歯を食いしばって努力すること。
3. いつも感謝の気持ちを持って、何事にも「Thank you」有り難うと言う習慣を身につけること。また、いつも朗らかに、素直に、微笑みを忘れず、しかも卑屈にならないように。この派遣は、社交の要領を身につける絶好の機会である。
4. 「他人の鼻は赤い」という譬えがあるが、他人の生活の方がいいように見えることがある。これは錯覚によるものであり、決して羨ましがったり、批判したりしないこと。
5. 派遣中の生活はすべて先方の負担により賄われるので常に感謝の気持ちを忘れることなく、責任の重大性を考えること。日常の家庭生活に必要なお小遣いは、先方から毎月6千円～1万円程度支給されるが、日々の生活に照らし合わせ、足りないと思うならば不足分は自分で補うこと。ただし他人から見て、贅沢だと思われる生活はすべきでない。そんな生活をするとは帰国の対象になる。あくまでも学生らしく質素に生活すること。ロータリーで定める緊急時のための持参金については、緊急時以外に使用してはいけない。
6. 服装や身だしなみについては、いつも清潔でさっぱりしていること。洗濯は少なくとも下着だけは自分で洗うこと。他のものは各々の家の事情により異なると思うが、受け入れ家庭の子供達と同じ扱いを受けるとしておくこと。自分の衣服をクリーニングに出した場合の費用は自己負担になる。
7. 長電話をしないこと。国際電話、長距離電話、FAX、Eメールなどの料金は本人負担になる。郵便や小包の発送を依頼するときも、必ず料金を添えること。

8. やりたいと思ったことは、どしどし相談をして、許される範囲内でのびのびと十分にやってみること。また、「YES」か「NO」か、明確に言えるような習慣を身につけておくこと。
9. 積極的に友達を作ることは、派遣の目的を果たす最大の要件である。それ故、よき友人は慎重に選ぶ必要があり、受け入れ家庭の両親とよく相談をして決めることが望ましい。特に異性との交際に深入りし過ぎて、先方の地区委員長から帰国を命じられることのないように注意のこと。
10. 交換学生として絶対にしてはならない禁止事項は次の通りである。
- ・自動車（バイク、モーターボート等動力で動くものを含む）の運転
 - ・喫煙
 - ・飲酒
 - ・麻薬
 - ・恋愛
 - ・収入を伴うアルバイト
- 日本語をちょっと教えてくれないかと依頼されることがあるが、このようなときはクラブカウンセラーに相談すること。
- ・その他 その国で法律によって禁じられている全ての事項
11. 両親には勿論であるが、第2640地区の青少年交換委員、スポンサークラブのカウンセラー、学校の先生にも2ヶ月に1回程度、近況報告の手紙を出すこと。返事を出す都合があるので、受け入れ家庭の住所は、はっきりと記載しておくこと。
12. 健康に留意すること。具合の悪いときはすぐホストファミリーに言うこと。健康管理については、受け入れクラブとホストファミリーが責任を持ってくれる筈である。なお、使い慣れている風邪薬、腹痛止め、若干の抗生物質、頭痛、生理痛等の鎮痛剤を持参すること。外国では医師の診断書がないと買えない薬がある。また女性の場合は使い慣れた生理用品も忘れないように。
13. パスポート、帰路航空券は大切な物なので、責任ある方（カウンセラー、青少年交換委員長、ホストファミリー）に保管してもらおうか、自分で責任を持って保管すること。余分のお金は貯金すること。年度が変われば早い目に航空会社に座席の予約をすること。
14. 在留期間は1年を超えることは出来ない。行くときは勿論であるが、帰国するときにも観光等で寄り道をせず、直接日本に帰ってくること。
15. 帰る際には、通学した学校から、帰国したときの進級に必要な成績証明書、または出席日数等、必要と思われる書類はもらってくること。

16. 帰国日が決定すれば、担当地区委員、スポンサークラブに連絡のこと。
17. もって帰る荷物は帰国の1～2ヶ月前に船便で送り返すこと。費用は原則として自己負担である。飛行機での荷物は、アメリカの場合は1個が32kg以内で2個、すなわち合計64kgまで無料であるが、ヨーロッパの場合は、20kg以内で1個となっている。
18. 夏休みを利用して、ヨーロッパでは、数週間の海外旅行、アメリカでは1ヶ月の国内バス旅行が企画される。費用は自己負担であるが、各国の学生と友達になる絶好の機会であり、友好親善を図るうえでもこれほど素晴らしい旅行はなく、終生忘れることの出来ない思い出となる筈である。参加する価値は大いにある。
19. 最後に交換学生として帰国したのちは、必ず交換生活の報告書を提出すると共に、帰国学生で組織するROTEXの会員となり、今後の学生交換に協力してほしい。

以上